

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4076200403		
法人名	地域福祉研究所(有)		
事業所名	グループホーム えだくに		
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市枝国439番地 (電話)0948-22-5900		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月10日	評価確定日	平成21年11月13日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤11人, 非常勤1人, 常勤換算	9.3人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての		1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	(水光熱費)15,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1167円	

(4)利用者の概要 (8月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	6名		
要介護5	3名	要支援2	名		
年齢	平均 86歳	最低	61歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大庭医院 小嶋病院 藤井歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームえだくに」は、国道200号線沿いの住宅地の中にあり、近くには大型ショッピングセンターや商店街があり、交通や買い物に便利で賑やかな周辺環境を有している。ホームは広い敷地の中にあり、中庭にあるデッキをはさみ2ユニットがそれぞれ独立した状態で静かな環境となっている。元医療に従事されていた運営者は「認知症・寝たきりの予防と健康管理」「安心できる医療体制・随時往診」「家族、友との語らい、ふれあいの場」の提供に向けて、安心なサポート体制の構築に努め支援している。今後は法人内の4ヶ所のグループホームの連携、また家族・地域・行政等、関係者との協力体制を更に高めていき、地域福祉の牽引役としての役割も期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	献立の充実に向けて、他のグループホームから知恵を借りたり、運営推進委員会で食事を開き率直な意見を聴いたり、実際に提供している食事を写真に写し、玄関フロアに掲示して見ていただいている。入居者にとって重要な食事に対するホームの姿勢を示すよう工夫を行なった。また研修受講後の感想や資料等、ファイル化し周知するように取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け止め、地域密着型サービスの役割について再確認する機会として捉えている。評価の項目毎に担当者を決め、年間を通して話し合い改善する事柄、続行する事など検討している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進委員会は定期的に2ヶ月に1回行われている。内容として市監査の指摘事項に関して取り組み、サービス改善を図った経緯を率直に報告し、ホームの姿勢を地域の方や家族に示す機会としている。この会議の中で試食会が行なわれ、意見を求めている。その他家族の意見の吸い上げや、防災訓練や感染症マニュアル等のテーマについて取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の意見や意向を、運営推進会議にて聴き取り、対応や改善は「えだくに通信」にて報告している。家族会を開催し、意見や苦情が言いやすい環境づくりが行なわれている。日頃より家族の心情に寄り添う事が出来るよう心掛けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。地域活動のリサイクル活動、ゴミ収集、敬老会に入居者と共に参加している。定期的に行なっている朝夕の散歩時には、近所の方々との挨拶も恒例となっている。ホーム主催の作品展や盆踊りの行事には、地域の人々へ参加を呼びかけている。また毎年恒例の歩こう会にも入居者の参加があり、賞状を頂くなど地域との関係を重視している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの意義を踏まえた、独自の理念が創られている。地域住民として自然体で地域に溶け込み、暮らしていくことを目指している。理念は大きな字で目に付きやすい場所に掲示してある。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	入居者・管理者・職員により、共に唱和している。理念の共有を図るための話し合いを行い、また問題等が発生した場合には、理念を礎としての検討が行なわれている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入している。地域活動のリサイクル活動・ゴミ収集・敬老会等に入居者と共に参加し、地域住民としての役割りを担いながら交流を育んでいる。朝夕の散歩時の近所の方々との挨拶も恒例となっている。ホーム主催の作品展や盆踊り等の行事には地域の人々へ参加を呼びかけ、交流を図っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価を活用して、地域密着型サービスの役割りについて再確認する機会と捉えている。項目ごとに担当者を決め、年間を通じて話し合い、改善された項目や継続して取り組んでいく項目などを検討している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期的に開催している。行政からの指摘事項に関して取り組み、サービス改善を図った経緯を率直に報告し、ホームとしての姿勢を、家族や地域に示す機会としている。試食会も行い、広く意見を求めている。家族の意見の表出の機会として、また災害対策等の議題にて意見交換が行われている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム えだくに

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	ホームが抱えている問題等、わからない点について相談している。市の主催する研修には必ず参加し、職員への周知を図っている。介護相談員を毎月受け入れている。今夏の水害により、水害対策マニュアルを作成中であり、行政との連携にも期待したい。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	行政や社会福祉協議会の主催する研修に参加し、職員へ伝達講習をしている。裁判所への訪問や司法書士との連携も行なわれている。法人内の事業所に制度を活用している方がおり、このような事例を踏まえ入居者の権利が法的に擁護されている事を職員に周知している。また運営推進会議でも制度に関する情報を提供している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族とのコミュニケーションの機会として、毎月の支払い時や季節の衣替えの際に来訪してもらい、暮らしの状況や健康状態の報告に努めている。「えだくに通信」を毎月発行し、入居者の日々の生活状況や行事報告を掲載し送付している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族の意見や意向を、運営推進会議にて聴き取り、対応や改善は「えだくに通信」にて報告している。家族会を開催し、意見や苦情が言いやすい環境づくりが行なわれている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	馴染みの関係づくりの重要性から、異動や離職については最小限となるよう努めている。やむを得ず職員が代わる場合は、管理者がサポートできる体制が整えられている。職員の採用にあたっては、試行期間を設け適任かどうかを定め、突然の離職にならないようフォローしている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、性別・年齢に関係なく、その方の働く意欲や必要人材であるかを基準にしている。能力が十分発揮できる様、日頃からコミュニケーションを重視し、資格習得や社会参加が図れるように勤務、ローテーションに配慮している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム えだくに

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	行政の主催する、人権に関する研修を受講している。受講の感想などを記録に残し、他の職員への周知を図っている。高齢者虐待及び身体拘束についても、学ぶ機会を確保している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	年間研修計画が作成されており、個々の職員の能力や経験に応じた段階的な育成に努めている。資格取得への支援も行われており、実際に勤務と看護学校を両立している職員もあり、柔軟に支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホームや小規模多機能施設などと交流があり、行事や食事の献立等に知恵を借りたり、意見交換が行なえるよう取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	緊急の入居の場合も多い。本人・家族に見学をしてもらい、ホームの理念を説明し、雰囲気を感じてもらいながら、納得後安心して入居できるよう配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々が自分の役割としている食器洗いや洗濯物干しの場面づくりを支援している。一生懸命に立位を保ちながら、皆のお膳を丁寧に拭いている姿があった。出来る事はするという入居者の自然体の姿に、学ぶ事が多いと職員は語っていた。職員はさりげなく入居者を見守り、日々の暮らしの中でお互い協力関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム えだくに

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や趣味などの情報を収集し、入居者の思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。また日々の会話の中からも、思いや希望、生活歴など引き出すように努めている。また帰宅願望のある方には、気の済むまで歩いてもらい、ずっと寄り添い見守っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向が明記され、簡潔な文言で書かれている。入居者が持っている役割等その人らしさを踏まえた上に、医療上の注意事項も掲げている。職員全員が同じサービスを提供できるよう、生活リハビリやレクリエーションのアイデアも具体的に計画を作成している。		個別の目標ノートを作成し、入居者一人ひとりの状態にあわせた計画が作成されている。今後は認知症への多面的なアプローチを含めた計画作成にも期待したい。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	具体的な個人の目標があり、それに伴いケース会議やモニタリングが行なわれている。定期見直しの前に変化が生じた場合には、本人・家族・職員と話し合い、計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人のグループホームが4ヶ所あり、それぞれの特徴を活かして柔軟な支援が行われている。お互いのユニットが合同で運動会・夏祭り・クリスマス会などの交流がある。実際に現金を使ってオートレースを楽しむなど、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の担当医の往診がある。入居者と医師のやり取りや、指示・注意事項・薬の変更が記録され、全職員で周知している。緊急時にも協力医療機関との連携体制により、適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホーム えだくに

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	看取りの指針を定め、家族に同意を得ている。看取りについてはかかり付け医と話し合い、本人や家族の意向に沿って支援している。職員間では朝のミーティングやケア会議、朝の申し送りの方針を決定している。これまでに看取りを行なった経験がある。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり付け医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者個人の誇りやプライバシーを守る為、特に対応や言葉がけに気をつけている。記録や個人情報の取り扱い、事務所にて管理・保管し、法令遵守に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりの暮らしのリズムを大事にし、その人が日々の役割としている洗濯物干し、お膳拭きなどのペースを大切に支援している。体調に配慮しながら、日課の散歩を楽しんでいただいている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	毎日の食事は、お気に入りの茶碗を使い、自分の好みの量を。盛り付けや配膳、食器洗い・お膳拭きなど出来る方で役割分担されている。また時には施設外での近くの福祉センターで好みのお弁当を取る等、外食を楽しんでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週3回行っている。皮膚疾患の方の方への配慮として、個別対応で曜日、時間帯に柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム えだくに

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	食器洗いや洗濯物を干したり、畳んだりしていただき、1人ひとりの力を活かせるよう言葉かけを行っている。日々の暮らしの中でシグナルをキャッチし、また新たな役割りや楽しみごとに気付くこともあり、柔軟な対応に期待します。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日常的に敷地内やホーム周辺への散歩を、入居者各自が自由に行なっている。帰る時間もまちまちだが、職員はゆったりと後ろから見守っている。敷地内の畑の耕作・収穫を職員と共に楽しんだり、中庭のデッキで日向ぼっこや会話を楽しむ姿もある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中鍵をかけないケアを実践しており、入居者の状態・行動の把握により、さりげない声かけや気の済むまで共に寄り添うなどの支援が行なわれている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害訓練は年2回、昼夜を想定して実施している。7月の大雨では水害も考慮しなければならない事態となり、マニュアルを作成中であり、行政の協力にも期待したい。非常時の食品・水を備蓄している。運営推進会議では災害対策が毎回議題としてあがっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	個々の健康状態で主食の量を調整し、また水分不足にならないように水分量をチェックしている。医療連携も行なっており、アドバイスや指示を得て、献立に反映させている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム えだくに

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	天井が高いホールには、ガラス窓が広く採用されており、中間採光にあふれ、開放的な空間となっている。対面式の厨房からは、調理の音やにおいを感じることが出来、家庭的な雰囲気となっている。廊下にはスナップ写真や、季節折々の手作りの作品が飾られている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の入口には、入居者や職員による個性のある手作りのネームプレートが飾られ、自分の部屋と認識しやすいように工夫がなされている。使い慣れた家具も持込まれ、洋服掛け等レイアウトにも個性が出ている。天気が良い日は必ず布団が干され、居心地よく清潔な居室となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			